

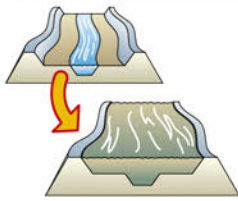
風水害について

集中豪雨に要注意

比較的短時間に狭い地域に多量の雨が降る現象を「集中豪雨」といいます。「集中豪雨」は、馬の背を分けて降るといわれるように、局地的にいつどこで急に降り出すか予想が付きません。また、雷を伴うような雨は「集中豪雨」になりやすいものです。「集中豪雨」は、中小河川の氾濫や、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな災害の発生につながる場合があります。気象情報等に十分に注意しましょう。

洪水災害とは？

河川増水



河川増水とは、雨などにより川の水量が普段より著しく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに中心部しか水が流れていません。これが通常の姿です。

ところが、川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「河川増水」といいます。

氾濫



水氾濫

川から水があふれるのではなく、住宅地や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水氾濫」といいます。

水害



水害とは、水によって起こされる災害のことで、外水氾濫も内水氾濫も水害と呼ばれます。ただし、海水による水害の場合は、高潮災害、津波災害といった呼び方をされます。

雨の強さと降り方

降っている雨を観察することで、おおよその雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を確認しておきましょう。

発表目安	記録的短時間大雨情報				
	大雨注意報	大雨警報	大雨特別警報		
予報用語 1時間雨量(mm)	やや強い雨 10~20mm	強い雨 20~30mm	激しい雨 30~50mm	非常に激しい雨 50~80mm	猛烈な雨 80mm以上
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

注意報・警報・特別警報の発表基準

雨の降り方や河川の水位状況の危険度に応じて、気象庁から警報等が発表されます。テレビ等からの気象情報に注意しましょう。

種類	発表の時期
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の大雨が予想されるとき。重大な災害が発生する可能性が高まっているとき。
大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれのあるとき。
洪水警報	河川の増水によって重大な災害が起こるおそれのあるとき。
大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれのあるとき。
洪水注意報	河川の増水によって災害が起こるおそれのあるとき。
記録的短時間大雨情報	1時間雨量100mmの猛烈な雨を観測したとき。
土砂災害警戒情報	雨量や過去の災害の記録などから土砂災害が発生する危険度が高まったとき。

土砂災害警戒区域

土砂災害のおそれがある区域については、県が指定しています。土砂災害警戒区域には、危険度に応じて2つの指定が存在します。市内には98箇所の土砂災害警戒区域が指定を受けています。(P2・3参照)

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に激しい危害が生じるおそれがある区域であり、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域。

このような前触れに注意！

- がけから水がわき出ている。
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる。
- 地鳴りがする。
- がけにひび割れができる。

土砂災害ハザードマップは、市ホームページで確認できます。
石岡市 土砂災害ハザードマップ [検索](#)

がけ崩れ

大雨や地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。

- 特別警戒区域
- 警戒区域

